図書館だより

２０２３夏

No. 267

調布市立図書館

水木しげる氏

表紙絵

＝狙いを定めて＝　　　　表紙絵：水木しげる

・ 特集：「第４次調布市子ども読書活動推進計画」を策定しました ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～3
・ 図書館メールカーは走る ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～5
・ 「夏休みにすすめる本２０２３」を発行します ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
・ FC東京選手の私のすすめるこの一冊２０２３ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
・ 郷土の歴史と伝承 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

※音声版、マルチメディアDAISY版もあります。ご希望の方は図書館へお問合せください。

「第４次調布市子ども読書活動推進計画」を策定しました

読書は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで欠くことのできないものです。調布市では、子どもの読書環境を計画的に整備し、子どもの発達段階に応じた読書活動を支援するために、調布市の施策の指針となる計画を策定し、数年ごとに見直しを図っています。

このたび「第４次調布市子ども読書活動推進計画」を策定しましたので、計画の４つの目標と図書館の取組を紹介します。また、「第４次調布市子ども読書活動推進計画」では、図書館の取組のほか、学校や行政、子ども関連施設等の取組についても記載しています。

『第４次調布市子ども読書活動推進計画』は市内各図書館、市ＨＰ、図書館ＨＰで全文を見ることができます。また、ご希望の方には冊子をお渡しします。市内各図書館にお問い合わせください。

「第４次計画」の目標

目標１ 子どもの発達段階に応じた読書環境の整備・充実	目標２ 家庭・地域・学校・行政の連携と相互協力
市内の図書館各館の子ども室には、絵本・読み物・自然科学の本等、あらゆるジャンルの本が揃えてあります。乳幼児には「聞く読書」を、小学生には「何度も読みたくなる本との出会い」を、中・高校生には「読書の幅を広げる」ため、さまざまな取組を推進しています。また、特別な配慮を必要とする子どもへの支援体制の充実にも取り組み、子どもの読書環境を一層充実させていきます。	保育園・幼稚園・児童館・学童クラブ・放課後等デイサービス等に、団体貸出やリサイクル資料の提供、出張おはなし会を実施しています。また、保健センターの健康診査で絵本のリストを配付したり、「子ども家庭支援センターすこやか」の乳児交流事業や子育て講座事業で、家庭での読み聞かせの啓発を行っています。
目標３ 子どもの読書活動の普及・啓発	**目標４ 読書で「生きる力」を育む**
保護者や地域社会の方々に、子どもの読書について理解と関心を深めてもらうため、「絵本の読み聞かせ講座」、「子どもの本に親しむ会」、「読み聞かせ交流会」を開催したり、配布物やホームページ等を活用した広報活動を行っています。また、読み聞かせや子どもの読書をテーマに、市内各所で出前講座を実施しています。	読書の喜びを与えてくれる「かけがえのない一冊」と出会うことは、心身の健やかな成長の上で大きな意味を持ちます。本を通して多様な生き方や未知の世界に目を向けて、生きる力、考える力を育むことができるよう、また、多様な情報の中から自分の求めている情報を見つけ出せる能力が育まれるよう、おすすめ本の展示やリストを配布しています。

発達段階に応じた子どもの読書活動の取組

乳幼児「聞く読書」

乳幼児期の子どもには、わらべうたや絵本の読み聞かせを行い、言葉や読書への興味を持たせてあげましょう。

★おすすめ絵本のリスト

・「赤ちゃんは絵本がだいすき！」　・「このほんよんで！　第２版」
・「今日のおはなしなーに？」　・「子どものほん」

★催し

・０・１・２歳のおはなし会　・おはなし会

小学生「何度も読みたくなる本との出会い」

小学生には「何度も読みたくなる本」と出会えるような環境を整備することが大切です。
かけがえのない一冊との出会いが読書継続の鍵となります。

★おすすめ本のリスト

・「１年生にすすめる本」　・「小学生にすすめる本　第２版」
・「子どものほん」　・「夏休みにすすめる本」

★催し

・おはなし会　・小学生読書会

★その他の取組

・子ども室の雰囲気づくりと、図書館の推薦図書の紹介を目的とした展示の充実
・問い合わせの多いテーマに関するリストやパスファインダーの発行
・「図書館で調べものをするときに」（中学年）（高学年）の発行

中学生・高校生「読書の幅を広げる」

中学生・高校生世代と図書館をつなぐための事業の実施しています。

★おすすめ本のリスト

・「中学生にすすめる本」　・ＹＡ（ヤングアダルト）向け展示図書リスト

★その他の取組

・「ぶちねこ便」（中学生の発行している通信）の発行

大人「家庭・地域での読書推進」

★読み聞かせにおすすめの本のリスト

・「読み聞かせにすすめる本～小学生向き～　改訂版」

★大人を対象とした事業

・絵本の読み聞かせ講座　・子どもの本に親しむ会
・読み聞かせ交流会

図書館メールカーは走る

調布市立図書館は人口２万人に１館、半径８００メートルに１館、２つの小学校区に１館の３原則を掲げ、中央図書館及び１０の分館網を整備しています。各館へは１日２回、資料の運搬車が廻り、予約資料を届けたり返却本の回送をおこなったりしています。

①　午前９時　中央図書館を出発！

中央図書館地下駐車場で資料をメールカーに積み込む様子

中央図書館の地下では、各分館毎に分類された予約資料や新刊書等が積み込まれます。多い日は１００箱近く運搬することもあります。

② 午前 11 時　富士見分館に到着！

富士見分館で予約資料や新刊書がおろされます。分館からは、中央図書館への返却資料や、他の分館で受取り予定の予約資料が積み込まれます。

富士見分館で資料をおろす様子

中央図書館行きの資料をメールカーへ運ぶ様子

③ 午前 11 時 18 分　中央図書館に帰着！

中央図書館地下書庫での資料仕分け（分館別）の様子

メールカーは、１０分館（火・金曜日は高架下資料保存庫にも寄ります）、市内をくまなく巡って戻ってきました。中央図書館地下書庫では、メールカーからおろされた資料を、分館毎に仕分けをおこない、次の出発準備をします。

④ 午後１時　再び中央図書館を出発！

メールカーの業務は市内の福祉作業所の皆さんにお願いしています。年末年始や分館の休館日（主に月曜日）を除いて毎日運行しています。なんと年間で 296 日にもなります。「いつでも・どこでも・だれでも利用できる図書館」を目指して、今日もメールカーは走ります。

※開館日は令和４年度実績

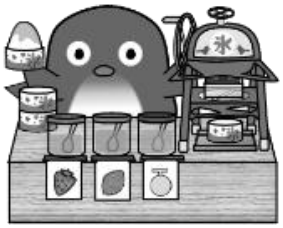
「夏休みにすすめる本２０２３」を発行します

小学生におすすめの本を紹介したリストで、「１・２年生」、「３・４年生」、「５・６年生」と３つの種類があります。毎年、小学校の先生と協力して作成し、市立小学校の児童には学校を通じて配付しています。

その中には、『たんたのたんけん』（中川李枝子さく　学研プラス）や『バンビー森に生きる－』（ザルテン作　福音館書店）をはじめとする長く読み継がれてきた本や、『妖怪一家の夏まつり』（富安陽子作　理論社）といったちょっと怖い（？）本など、夏休みに読んでほしい本を載せています。また、『がんばれヘンリーくん』（クリアリー作　学習研究社）のようにシリーズの本がたくさんあり、 夏休みにじっくり読める本も紹介しています。

このリストは７月７日(金)に発行し、市内の各図書館で展示を行います。毎年、たくさんの子どもたちがこのリストで紹介した本を借りに来てくれます。

夏休みはぜひ、お近くの図書館に足を運んでみてください。



【ほかにもこのような本が載っています】

「１・２年生」

『はなびのはなし』　たかとうしょうはちさく　福音館書店

なつのよぞらにきれいなはなびがあがります。はなびは、ふゆのあいだからつくりはじめます。どうやってつくっているのでしょうか？

「３・４年生」

『しろくまジローはすもうとり』　ななもりさちこ作　福音館書店

動物園(どうぶつえん)のしろくまのジローは、もらったまきずしを頭にのせるとすもうとりに変身(へんしん)しました。人間になったジローは、動物園をおいだされてしまいますが、すもうとりとしてだいかつやくします。

「５・６年生」

『名探偵(めいたんてい)カッレ城跡(しろあと)の謎(なぞ)』　リンドグレーン作　岩波書店

カッレの親友、エヴァロッタの家に、エイナルおじさんが来ました。おじさんは、夜中に家を抜(ぬ)け出すなど何かとあやしい人物です。カッレはその謎を探(さぐ)ろうとします。

ＦＣ東京選手の
私のすすめるこの一冊 2023

～ 図書館からスタジアムへ、スタジアムから図書館へ～

調布市は平成１１年から「ＦＣ東京等とのパートナーシップによるスポーツ振興等の推進」を基本計画の中で掲げ、味の素スタジアム（調布市西町）をホームグランドとしているサッカーチーム、ＦＣ東京を応援しています。

調布市立図書館でも、地域ゆかりのチームや選手を通じてスポーツの振興と読書の推進をはかりたいと考え、図書館とＦＣ東京が連携して本冊子を作成しました。

お気に入りの選手がどんな一冊を紹介しているのか、ぜひご覧ください。

冊子は６月３日（土）味の素スタジアムで行われたＦＣ東京対横浜Ｆ・マリノスの試合前、飛田給駅から甲州街道までのスタジアム通りで開催する青赤ストリートにて配布を開始し、続けて、調布市立図書館全館で配布しており、図書館ホームページでもご覧いただけます。

中央図書館４階のＦＣ東京応援展示コーナーでは、掲載した本の展示と貸出をしていますのでどうぞお気軽にご来館ください。

写真提供：FC 東京

冊子は調布市立図書館全館で配布しています。

※写真は中央図書館４階
ＦＣ東京応援展示コーナー

調布のあゆみ－255

郷土の歴史と伝承

村境の狐狸ばなし

関口　宣明

１．動物の不思議な力

古くから動物には、天候の急変や災害などを予知したり、人にのり移って神の言葉を伝えたりするなど不思議な力があると信じられていました。「かちかち山」や「文福茶釜」の昔話のように、狸が人や物に化ける昔話もよく知られています。まだ人家がそれほど多くなかった明治時代の調布には、お寺の和尚さんが狸と問答する話も伝えられており、動物は人々のくらしに身近な存在でした。しかし世の中が開けるにつれて、山川、樹木、動物など自然への信仰が薄れてくると、威力を失った狐や狸などは人を化かしたり驚かせたりするようになりました。

２．境界に祀られる神霊

人が化かされるなどの神秘体験をする場所というのは、あの世や神の世界に通じると考えられていた村の出入口や坂、川辺などでした。たとえば、もと武蔵野台地の縁にあった江戸の日比谷稲荷では、旅人が願掛けして叶ったのは、付近の森に棲む狐の生態に神秘を感じていた周囲の人たちと心が通じあったためといわれています。近郊の村でも、生活の安全を守るため、神さまをまつって疫病や災厄の侵入を防いだり、祖先の霊を送迎したりしてきました。これらの神霊は敬いまつれば恵みをもたらし、そまつにすると祟るという性格をもっており、化け物というのは、これらの神霊の落ちぶれた姿であるとされています。

３．電車を止めた狸の話の起り

調布には、京王電車が大正２（1913）年に敷けて間もないころ、電車が仙川の滝坂（旧入間村と旧下仙川村境）あたりを下ると、狸が娘に化けて線路のふちを歩いていたり、松や木立が突如、線路にできたりして、電車の行く手をさえぎった話が伝えられています。

（調布今昔写真）

この話のもとになったのは、明治５（1872）年に新橋・横浜間に開通した東海道線で、品川の八ツ山の棲みかを追われた狸が汽車に化け、「ポーポー」と音をたてて走らせ、本物の汽車に轢かれたという伝承です。この話は、当初、火をふく怪物のイメージがあった汽車に未知なる不安をもつ世間の関心をあつめ、最新の知識（情報）として郊外に広まりました。

４．危ういうわさ話発生の背景

多摩川では、汽車による東京への砂利運搬が盛んでした（明治後期から）。川筋に何カ所も敷かれた砂利線の線路では、ムジナ（穴熊）が女の人や植木に化けて汽車を止めたとか、汽車からでる火の粉がワラぶき屋根に降って大火事になったという話が伝わっています。

また甲武鉄道（のちの中央線）などの計画がもちあがったときには、養蚕が盛んでしたので、桑や蚕に汽車の煙がよくないとか、街道の宿場では旅人相手の商売が成り立たなくなる、農家の働き手を都会にもっていかれるなど不安の声が各地であがったといいます。文明開化や東京の発展のなかで、自然に囲まれた村のくらしが変化し、動物話にも目新しい話題が織り込まれました。狸や狐が汽車や電車を妨げる話は、くらしや資源を守る人々の思いを反映したものと考えられます。

※参考文献：中島 恵子「調布の動物話」
野村 純一「世間話と怪異」

刊行物番号
２０２３－５９

図書館だより　第２６７号
令和５年６月２５日発行　［庁内印刷］
発行　調布市立図書館
〒182-0026　東京都調布市小島町2-33-1
℡　042-441-6181
https://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/